

## 「鮭の聖地」の物語 ～一万年の源流を訪ねて

井南 進 (いなみ すずむ)  
南知床標津町観光協会 会長

標津町は、北海道東部に位置する漁業と酪農業の町です。今回、「わが村は美しくー北海道」運動第2回コンクールで銀賞を受賞した南知床標津町観光協会（旧標津町エコツーリズム推進協議会）の井南会長にお話を伺いました。

### 《標津町ならではの自然体験型観光》

標津町は、日本有数の鮭の漁獲量がある一方、近隣の町と同様に広大な酪農地帯でもあります。周辺の有名観光地に囲まれたこの町を訪れる人は少ないので、「自然環境や産業を活かした町づくり」ができないかという考えのもと、平成13年5月に体験型観光を推進する「標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会」が発足しました。主に、全国各地の小学生から高校生などの修学旅行生や大学のゼミの活動を受け入れ、漁業、酪農業の関係者、旅館組合、ガイド協会、観光協会など様々な地元の人たちが関わることで、町の活性化につながると考え活動を進めています。体験型観光には、鮭荷揚げ体験、新巻鮭づくりやいくらづくり、ホームステイをしながらの酪農体験、また、ポー川のカヌー



新巻鮭づくり体験の様子



体験など、多種多様なプログラムを1年中体験できます。特に新巻鮭づくりは、自分たちで捌いて作った鮭の味は格別においしいと人気だそうです。

### 《歴史文化に触れながら》

標津町には一万年の昔から鮭と共に生活してきた歴史があります。ポー川流域を中心に鮭を求め集まったと思われる竪穴住居跡群が発見され、一万年に及ぶ人々の暮らしが続いてきた証があり、町内ではその歴史を学ぶことができます。令和2年6月には、根室海峡沿岸地域の歴史文化のストーリー『「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程』（標津町・根室市・別海町・羅臼町）が、文化庁の日本遺産に認定されました。

### 《今後の活動》

自然に恵まれた地域資源を活用し、地元の人々と観光客が交流することが地域活性化につながると考えます。ただ観光するのではなく、ガイドを付けて体験することでより深く学び、楽しむことができ、また、文化遺産を守るという意識向上にもつながります。

今後さらに、シーカヤック、サイクリング、文化遺産巡りなどの新しいプログラムを考え、コロナ禍でも感染予防対策を徹底して、受け入れ環境を整え活動していきたいと意欲に燃えています。

北海道の雄大な自然で、人々を笑顔にして、自然と地域と共にある暮らしを旅する、こんな観光はいかがでしょうか。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。